

### \* 乗鞍コロナ観測所開設記念の官製はがき発見

アーカイブ室新聞188号に、2009年4月18日国立科学博物館で天文に一方ならぬ関心をもった横浜の野地さんという方と知りあい、昭和31年発行の乗鞍コロナ観測所の小冊子を持っているというお話を伺い、その小冊子をお借りして記事を書いた。この方は大変な鉄道マニアでもあり、名刺が鉄道切符の形をしていた。そしていただいた日付印まで入っているという念の入れようであった。その記事の中で野地さんのユニークなおもしろい名刺を紹介したかったが、何しろ全くの個人情報の詰まったものだから、そのときなんとかその気持ちを抑えた。しかし、こんなおもしろい話を誰にもしゃべらないのは1種の悪だという気がしてきた。そこで個人の情報は読めない形で紹介したい。写真1が彼の名刺である。野地という文字と、彼の生き様を表した最後の行以外は隠させていただいた。この写真で彼の名刺のユニークさは十分に伝わると思う。なお、書き加えるが、この切符型名刺には「駅のはさみ」も入っており、発行日は名刺を渡した日付であり、裏面もまた往時の番号(写真2)が入っているのである。



写真1 野地氏の名刺

今回の新聞の目的は、このユニークな名刺を紹介することが目的ではない。表題にあるように「乗鞍コロナ観測所開設記念」の官製はがきがあったという記事である。実は、野地氏からこの記念ハガキが乗鞍コロナ観測所の昭和31年発行の小冊子と一緒に送られてき

たのである。当然ながら、コロナ観測所関係者はたぶん記念ハガキがあったことはご記憶だったに違いないが、広くは知られていない。

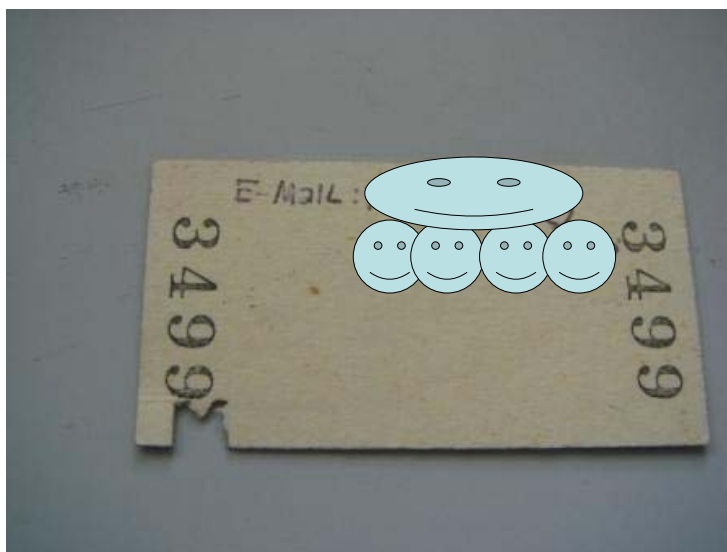


写真2 裏面も切符だ！

さて、お送りいただいた記念のスタンプ入りの官製はがきが写真3である。

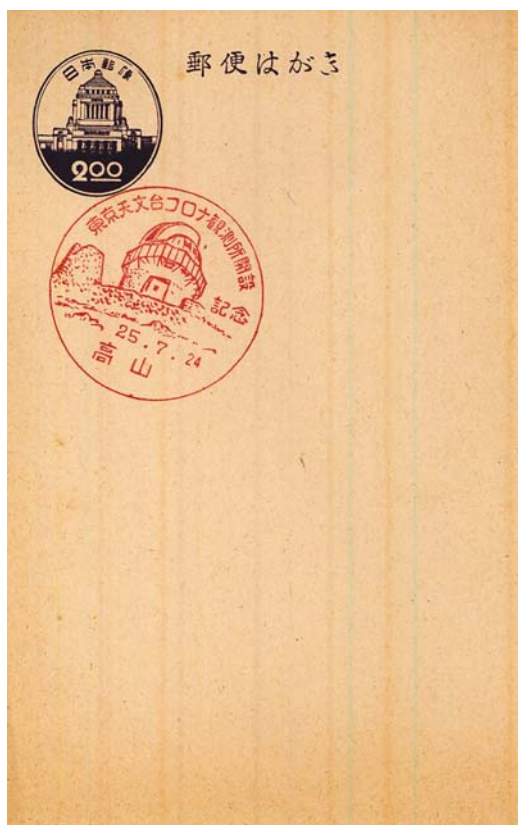


写真3 記念ハガキ

スタンプの日付は、昭和25年7月24日になっている。東京天文台では乗鞍コロナ観測所開設は昭和24年といわれている。このあたりの事情は元乗鞍コロナ観測所長であった日江井

先生のお話では、観測所開設は昭和24年であったが、そのときはすでに冬季であり、お披露目は翌年にせざるを得なかったということである。このハガキの価格が2円である。現在は郵便はがきは50円、25倍になっている。



昭和35年に開設された岡山天体物理観測所の際は、記念切手が発行された。昭和36年に岡山天体物理観測所に就職した筆者はその記念切手を持っている。その紹介は次号以降にしよう。お楽しみに！